

日時：令和3年7月27日(火)

令和3年度 大阪府立野崎高等学校 第1回学校運営協議会議事録

学校運営協議会委員出席者

中畠 正人 大阪産業大学 入試センター次長

長廻 暢一 大阪国際大学 入試・広報部参与

笛田 直樹 大東市立四条中学校長

尾崎 明幸 だいたう森づくりクラブ代表

梅本 正直 北条憩いの家 所長

土岐 浩二 本校PTA 会長

○学校運営計画について

2 中期的目標について

1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

- ・1,(1)イの内容は重要な課題と考える。今年度初めてコロナ禍中での課題解決の項目を入れられたのは良いと思う。その中に図書館の整備・充実を図るとあるが、具体的にどのようなことをされるのか。

→居場所カフェの開設や蔵書をPTAから寄贈していただくなど生徒が来室しやすい工夫を行う。

- ・1,(2)の学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」の保護者の肯定的回答率がここ3年間低下しているのはどうしてなのか。

→新型コロナウイルス感染症の影響で保護者に来校していただく行事が中止になったりしていることが影響していると考えられる。

2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

- ・2,(1)の課題解決を図るために学校生活における生徒の行動の変化や成績の変化を注視し、教職員の情報交換を密に対応してもらいたい。また、保護者懇談会での情報も参考にしてほしい。

- ・学校教育自己診断の「頭髪・服装指導は適切である」の肯定的回答率の低下及び年間の登校遅刻延べ回数が増加傾向にあるのが気になる。教職員一丸となって、課題解決を図ってほしい。

全般的に

- ・多くの項目について具体的な取り組みが示されております。
- ・高校3年間の学びで、生徒が後悔のない自己実現ができるように学校全体で取り組んでいることが伝わってきます。
- ・すべての内容について、承認いたします。

○各分掌について

- ・各部とも丁寧に取り組みをすすめておられます。
- ・各部の取り組みがお互いに有機的にむすびついて、学校全体の力になっていることが感じられます。

○全体を通じて

- ・コロナ禍にあって、学校行事や部活動等入学した生徒の思い出作りが十分でない状況がある。なかなか難しい状況であるが、先生方の相違・工夫により達成できるよう尽力を願う。
- ・入学者数の定員割れは、大きな課題である。チャレンジ野崎や学校説明会の状況を分析し、中学校や地域の方の声も参考にしながら、来年度に生かしてもらいたい。
- ・3年連続の定員割れで、来年度の募集について、決定したことはあるのでしょうか。  
→現時点では決定事項はなく、例年通りと進めているところ。
- ・資料を読ませて頂いての意見と感想ですが、講師を招いて人権問題や差別問題、障害についてやLGBT等の社会的弱者やマイノリティに対する教育に積極的に取り組んでいると感じました。また様々な生徒がいる中、先生方が誰一人として置き去りにしないような取り組みをしていると感じました。
- ・これからも野崎高校の発展と全校生徒の成長を願っております。